

Page 22 - Chapter 1

Sentence 1

季耶夫斯基滔滔不绝地谈论数学，帕佩尔诺谈论语言学，鲁辛畅想造船业，大家取笑练习合气道的贝尔托娃。

ジエフスキーは数学について語り、パペルノは言語学について語り、ルーシンは造船について夢を語り、合気道をやっているベルトヴァをからかった。

Sentence 2

当杜罗夫被问及他将来想成为什么时，他打破沉默，微笑着说：图腾。

ドゥーロフが将来の自分をどう見ているかと聞かれたとき、彼は沈黙を破り、微笑みながら言った：「トーテムだ」

Sentence 3

他的愿望、热情、技能汇聚成一个公式。一切无趣和不必要的东西都被过滤掉了。

彼の願望、情熱、スキルが一つの公式にまとまった。興味のないもの、不要なものはすべてふるいにかけられた。

Sentence 4

他重复了周围人当作玩笑的话，却不知道这句话将决定接下来发生的一切：我想成为互联网图腾。
彼は周囲が冗談だと思ったことを繰り返した。言った言葉がその後のすべてを決定することを知らずに：「私はインターネットのトーテムになりたい」

Translator Notes

- Page 22 is the final page of Chapter 1
- This is a pivotal moment - Durov's declaration of his life goal
- Totem - a symbol or emblem representing a group or community
- Internet totem - Durov's vision of becoming a central figure/symbol of the internet age
- The phrase I want to become an internet totem became prophetic given VKontakte's success
- Dievsky and Paperno - classmates mentioned earlier who created their own state in class
- Aikido - Japanese martial art that Bertova practiced